

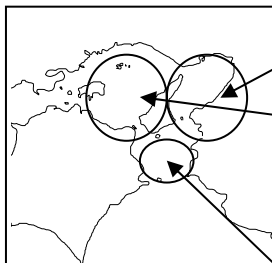
瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報(5～6月)

- 平成 17 年 4 月 26 日～4 月 27 日において開催された第 36 回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議において別表の水産関係機関が検討し、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2005年5～6月)

シラスは2004年並みか2004年を下回る。

- 紀伊水道東部(和歌山県側)では不漁であった2004年並み。
- 紀伊水道西部(徳島県側)では不漁であった2004年並み。
- 大阪湾では平年並みであった2004年を下回る。
- 播磨灘東部(兵庫県側)では平年並みであった2004年を下回る。
- 播磨灘南西部(香川県側)では不漁であった2004年並み。
- 播磨灘北西部(岡山県側)では不漁であった2004年並み。



- シラス 大阪湾では平年並みであった2004年を下回る。
- シラス 播磨灘東部では平年並みであった2004年を下回る。  
播磨灘南西部では不漁であった2004年並み。  
播磨灘北西部では不漁であった2004年並み。
- シラス 紀伊水道東部では不漁であった2004年並み。  
紀伊水道西部では不漁であった2004年並み。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ(<http://www.nnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。  
水産庁増殖推進部沿岸資源班 担当：青木、田中  
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1  
電話：03-3502-8111(内線7376、7375) ファックス：03-3592-0759  
電子メール：chikage\_tanaka@nm.maff.go.jp  
水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所企画連絡室  
住所：〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5  
電話：0829-55-3406 ファックス：0829-54-1216  
電子メール：feis-kiren@ml.affrc.go.jp

## 参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場

大阪府立水産試験場

兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター

岡山県水産試験場

香川県水産試験場

徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 資源評価部

独立行政法人水産総合研究センター 中央水産研究所 海洋生産部

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 生産環境部

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

## 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

### 1. 今後の見通し(2005年5～6月)

#### シラス(本年春季発生群)

紀伊水道東部(和歌山県側)では不漁であった2004年並み。

紀伊水道西部(徳島県側)では不漁であった2004年並み。

大阪湾では平年並みであった2004年を下回る。

播磨灘東部(兵庫県側)では平年並みであった2004年を下回る。

播磨灘南西部(香川県側)では不漁であった2004年並み。

播磨灘北西部(岡山県側)では不漁であった2004年並み。

特に断りがない場合には、代表漁協におけるシラス漁獲量を各海域のシラス漁獲量の指標とし(図1～3)、1985～2003年の平均値を平年値とした。

### 2. 漁況の経過(2004年4月～2005年4月)および見通しについての説明

#### (1)シラス漁況

紀伊水道東部(和歌山県側)では4月は前年の200%と大きく上回ったが、5月は前年の20%と大きく下回った。6月以降も低調に推移した。2005年の漁は4月14日に始まった。初漁日はまとまった漁獲があったものの、その後は続かず、4月18日現在は沿岸域で1日1隻当たり100kg以下と低水準である。

紀伊水道西部(徳島県側)では2004年の漁獲量は前年の40%、平年(1990～2003年)の49%であり、1990年以降で最も不漁となった。4月は平年の229%と好漁であったが、5～7月は平年の15～33%で不漁となった。8月、9月はそれぞれ平年の70%、143%であった。2005年の漁は3月29日から始まった。4月16日までに11日間出漁したが、1日1隻当たり25～300kgと低水準である。

紀伊水道北部(兵庫県側)では2004年の漁獲量は前年の57%であった。外海発生群の流入により4月にまとまって漁獲されたが、5月には急減した。6、7、9月に少量の漁獲があった。2005年の漁は4月中旬から始まったが、当初の漁獲量は少ない。

大阪湾(大阪府側)では2004年の漁獲量は前年の94%、平年の121%であり、前年を下回ったが平年を上回った。2004年の漁は4月22日から始まった。4月は前年、平年とも大きく上回り、好漁であった前年をさらに上回った。5月当初は4月から引き続き好漁であったが、中旬以降に減少した。6月に入ると黒潮の離岸に伴い漁獲がさらに減少し、ほとんど漁獲がなくなった。7月以降も漁は回復せず、9月以降はまったくなくなった。

大阪湾(兵庫県側)では2004年の漁獲量は前年より減少したが、平年の112%であった。4月下旬から外海発生群の流入により好漁となったが、5月下旬には減少した。6月はほとんど水揚げがなく、7、8月に少量の漁獲があったものの、9月以降は低調に推移した。

播磨灘東部(兵庫県側)では2004年の漁獲量は前年の51%、平年の45%と少なかった。2004年の漁は5月下旬から始まった。まとまった漁獲がみられたのは当初の10日間程で、6月には減少した。その後は8月に少量の漁獲があったものの、9、10月には休漁する地区もみられ、低調なまま12月上旬で終漁した。

播磨灘南西部(香川県側)では2004年の漁獲量は前年の34%、平年の27%であり、1985年以降で最も不漁となった。2004年の漁は6月1日から始まった。6月の漁獲は非常に少なく、前年、平年(1989～2003年)を大きく下回った。7月以降、漁期終了までの漁も極めて低調に推移した。

播磨灘北西部(岡山県側)では2004年の漁獲量は前年の19%であり、2000年以降で最も不漁となった。パッチ網船1隻の仕切り帳整理と聞き取り調査によると2004年の漁は5月17日から始まった。5月は11.4トン、6月は0.7トンであった。全般的に不漁ながらも、5月に比較的好調であった海域は備讃瀬戸東部であった。

## (2) 外海域での産卵量等

中央水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況では、薩南～紀伊水道外域における2005年2～3月の産卵量は2004年並みであり、(1995～2004年)をやや上回る水準であった。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場が行った定線調査では、2005年3月の紀伊水道外域でのカタクチイワシの卵密度は前年の3%、(1995～2004年)の3%で前年、(1995～2004年)を大きく下回った。稚仔密度は前年の13%であった。4月の卵密度は前年の5%、(1995～2004年)の21%で前年、(1995～2004年)を大きく下回った。

徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所(現徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所)が行った定線調査では、2005年3月の紀伊水道外域におけるカタクチイワシの卵密度は前年の43%、(1985～2003年)の87.9%であった。稚仔密度は前年の15%、(1985～2003年)の117%であった。

## (3) 今後の見通しの説明

### シラス(本年春季発生群)

黒潮は4月には潮岬沖でやや離岸しており、来遊環境(紀伊水道への暖水波及)はよくない。平成16年度第3回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報によると、この離岸傾向は5月まで続くが6月以降は接岸傾向となり、薩南～房総沿岸域では黒潮の離接岸変動に伴って一時的に暖水が波及することがあると予測されており、来遊環境が回復する可能性はある。また紀伊水道外域西部での3月のカタクチイワシ卵密度は高く、今後、来遊環境の回復と重なれば卵稚仔が紀伊水道へ来遊する可能性がある。

大阪湾で漁獲される春季シラス漁は、紀伊水道および外海域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。紀伊水道外域でのシラスパッチ網では比較的漁獲があるものの、紀伊水道内ではほとんど漁獲がみられていない。また、黒潮は現在離岸傾向で、外海系水の判断基準となる水温15以上、塩分34の海水の波及がほとんどみられておらず(大阪府立水産試験場による4月13日の大阪湾から湯浅湾北部までの紀伊水道調査)、来遊環境は回復する可能性はあるもののあまりよくない。大阪湾でも魚影が確認されていないことから、現在のところ春季シラス資源は大阪湾内の漁場にほとんど来遊していないと推測される。これらのことから、5月上旬にまとまった漁のあった2004年を下回る可能性が大きい。

播磨灘東部(兵庫県側)で漁獲される春季シラス漁も紀伊水道および外海域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。今後の外海からの来遊は期待できないことから、5月下旬にまとまった漁のあった2004年を下回ると考えられる。

播磨灘南西部(香川県側)で漁獲される春季シラス漁も紀伊水道および外海域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。今後の外海からの来遊は期待できないことから、不漁であった2004年並みと考えられる。

播磨灘北西部(岡山県側)では2004年のシラス漁が不漁であったことから、2005年まで当海域に滞留した資源は少ないと考えられる。また、近年、春季から秋季に産卵親魚の分布が認められ、卵、仔魚

の発生量は多かったものの、2004年のそれらの生残は悪かった。このため2004年の海況が継続すれば、シラス漁は引き続き、低い水準となることが予想される。

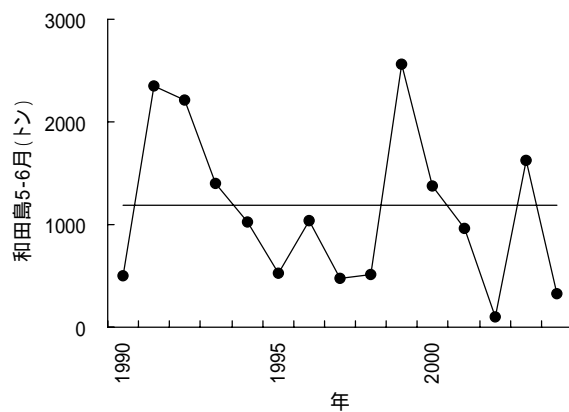
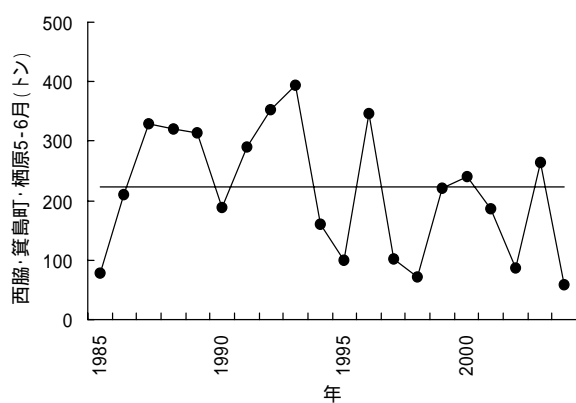


図 1 紀伊水道東部(和歌山県側:左図)および紀伊水道西部(徳島県側:右図)の標本漁協におけるシラス漁獲量、実線は平年値を示す

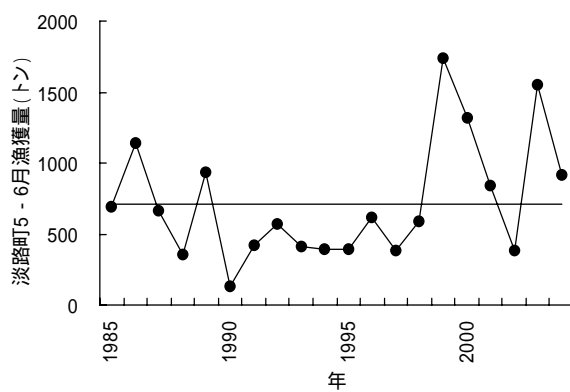
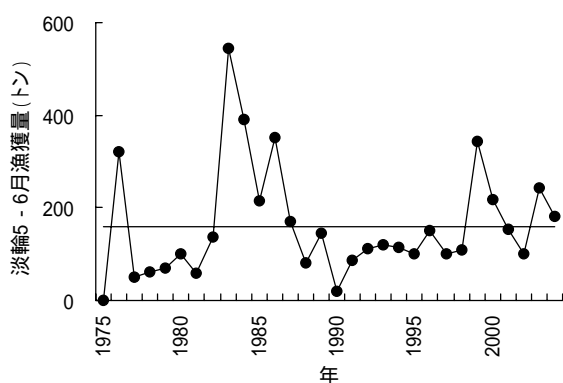


図 2 大阪湾東部(大阪府側:左図)および大阪湾西部(兵庫県側:右図)の標本漁協におけるシラス漁獲量、実線は平年値を示す

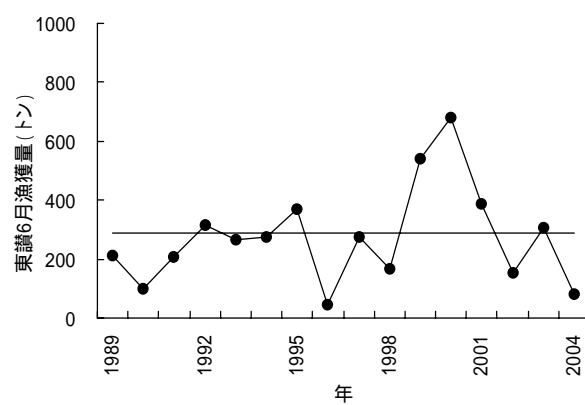
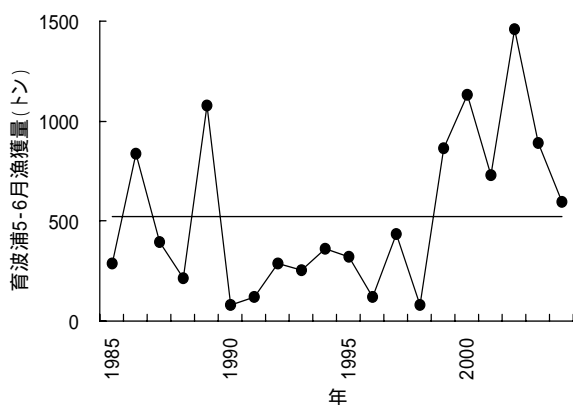


図 3 播磨灘東部(兵庫県側:左図)および播磨灘南西部(香川県側:右図)の標本漁協におけるシラス漁獲量、実線は平年値を示す